

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成23年9月29日(木) 5校時
児 童 男子 6名 女子 4名 計10名
指導者 大谷 寛子

1 単元名 (教材名)

物語の感想をまとめよう (ちいちゃんのかげおくり) 光村図書 下p. 4～p. 18

2 単元について

(1) 児童について

児童は、これまでに文学的な文章を「読むこと」については、「きつつきの商売」で「場面」という概念を初めて学習し、二つの場面の様子や音を想像し、音読の仕方を工夫しながら学習を進めてきた。また、「海をかつとばせ」では、人物に着目して読み、登場人物と自分とを比べながら読み進める経験をしている。

「物語を読んで感想を書く」活動は「イルカのねむり方/ありの行列」で、感想を書くときに使ってみたい言葉や書き方として、「はじめて知っておどろいた。」「前に『〇〇』という本を読んだ。それに比べると、・・・。」などを学習しているが、後者を使って感想を書く児童はいなかった。さらに、引用は「本は友だち」で本の紹介文をつくる活動の中で経験している。

本学級の児童は、文章を表面的に理解することはできても、登場人物の心情や場面の様子を探る上で大事な言葉に注目しながら吟味して読み取ったり、文と文や場面と場面を関連づけて読み取ったりすることができているとは言いがたい。そのため、単純な空想や飛躍した想像から場面の様子や登場人物の心情などを考えてしまう児童もいる。また、自分の考えを整理することができずにいるため、考えの中心が分かりにくく、何を伝えたいのかが明確に表現されないことが多々見られ、主述のねじれなどもある。

(2) 主たる指導事項

学習指導要領第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」ことである。これを受けて、本単元の「読むこと」の指導事項は、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像しながら読むこと。」(読ウ)、「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」(読エ)「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」(読オ)である。

本単元の教材「ちいちゃんのかげおくり」は、児童が初めて教科書で出会う、戦争を行っていた時代の物語である。児童が自分たちの生活とは遠くかけ離れた過去の出来事「戦争」や、当たり前と思っている家族との生活、命、未来などの「平和」を見つめることになる。しかし、本教材は、戦争の悲惨さを直接表現している作品ではない。その点で場面の様子を想像しながら読み進めるとき、当時の時代背景を理解させる難しさがある。しかし、主人公が幼い女の子であり、家族との関わりを中心に物語が進行するため、児童はちいちゃん的心情がとらえやすい作品であると考えられる。

ひとりぼっちになってしまうちいちゃんの寂しさや恐怖、家族の帰りを信じながら一人で「かげおくり」をしながら力尽きてしまう哀しさなどを文章の言葉を手がかりに想像させ、感想文に生かせるように学習を展開する。

(3) 指導にあたって

本単元の言語活動は、「感想をまとめよう」である。心を打たれた言葉や文章を引用したり要約したりすることで、自分の考えを補強したり例示したりできることや、感想をまとめるための物語の読み進め方について考えさせながら学習を展開させていきたい。

第一次では、戦争に対する知識や読書経験を交流しながら、単元のゴールである「物語の感想を書きまとめる」までの道筋を示し、感想をもって読み進める意識をもたせたい。その際、戦争について書かれた作品の感想文を幾つか提示し、どのように物語を読み進めれば、感想文が書けるのかを押さえ、学習意欲の向上を図りたい。

第二次では、叙述を手がかりにしながら、登場人物の状況や心情の変化、場面の移り変わりを

読み取らせたい。そのために通読から、物語の大体を捉えさせた後、二つの「かげおくり」の間に起きた出来事を読み取りを通して、文章に書かれていない出来事やちいちゃん的心情を想像し、戦争の悲惨さやちいちゃんの味わった孤独を感じることができるようにしたい。そして、二つの「かげおくり」を人物の行動や会話、周りの状況に着目させ、似ている叙述を比べながら読むことで違いを捉えさせたい。その際、これまでに読み取ったちいちゃん的心情を重ねて考えさせることで、読みを深めさせたい。また、ちいちゃんが失ったものを整理しながらちいちゃんが登場しない場面を読むことで、現在も戦禍の中で生活しているたくさんのちいちゃんがいること、自分たちの町にもちいちゃんがいたことに気付かせたい。学習全体を通して、心を打たれた言葉や文章を書き出すことで、感想文を書くための準備をさせたい。

第三次では、これまでの学習をもとに、感想を書き交流する。交流を通して、根拠を示すことの重要性や互いの感じ方に違いがあることに気付かせたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・言葉や表現に着目して読み、進んで感想を書こうとする。

(2) 読むこと

- ・場面の移り変わりに注意し、それぞれの場面を想像して読むことができる。(1) ウ
- ・感想が文章のどの叙述に基づいているのか、該当する本文を引用しながら表現することができる。(1) エ
- ・物語を読んで感想を持ち、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。(1) オ

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・文章中で使われている言葉に注目し、表現するための新しい語句を増やし、使うことができる。(1) イ (オ)

4 単元の評価規準 (B)

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・言葉や表現に着目して読み、進んで感想を書こうとしている。

(2) 読む能力

- ・場面の移り変わりに注意し、登場人物の行動や心情、情景など場面の様子を想像して読んでいる。
- ・心を打たれた場面の感想文を書くために必要な文章の要点に着目して読み、自分の考えを補強したり例示したりするために本文の言葉や文章を引用したり要約したりしている。
- ・感想文を発表し、友達との考え方や書き方に違いがあることに気付いている。

(3) 言語についての知識・理解・技能

- ・文章中で使われている言葉に注目したり、自分の考えを表現するために必要な語句を用いたりして感想文を書いたりしている。

5 学習指導計画（読むこと 12時間 全12時間）

段階	学習課題	学習活動（時間）	評価規準（B）
つかむ	・読んで感じたことを発表しよう。	・「ちいちゃんのかげおくり」を読み、話の大筋をつかみ、初発の感想をもつ。 ・学習のゴールを捉える。（1時間）	【関】戦争に対する知識や読書経験を交流したり、心に残ったところについて感想をもったりしている。（ノート） 【関】学習のゴールを捉えている。
	・感想文の書くための物語の読み方を考えよう。	・「かわいそうなぞう」の感想文から、物語をどのように読み進めれば感想文を書くことができるかを考える。（2時間）	【読エ】モデルの感想文から、物語をどのように読み進めれば感想文を書くことができるかを理解している。（ワークシート）
	・学習計画を立てよう。	・学習計画を立てる。（1時間）	【関】学習計画を立てている。
とらえ・ふかめる	・ちいちゃんの家族の会話や行動から、気持ちを考えよう。	・会話や行動から、出征するお父ちゃんや見送るお母ちゃんの不安な気持ちや無邪気にかげおくりを楽しむちいちゃんやお兄ちゃんの気持ちを読み取る。（1時間）	【読ウ】人物の行動や会話、周りの状況に着目ながら読むことでちいちゃんの家族の気持ちを捉え、心を打たれた言葉や文章を書き出している。（ノート・発表）
	・ちいちゃんの言葉や行動から、ひとりぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを考えよう。	・ちいちゃんの様子や言葉から、一人ぼっちになってしまった気持ちやお母ちゃんやお兄ちゃんの帰りを待つちいちゃんの気持ちを読み取る。（2時間）	【読ウ】叙述を基に空襲の恐ろしさを捉え、人物の行動や会話に着目しながら読むことで、一人ぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを想像し、心を打たれた言葉や文章を書き出している。（ワークシート・発表）
	・二つの「かげおくり」のちがいをを見つけ、かげおくりをしたちいちゃんの気持ちを考えよう。	・二つの「かげおくり」を似ている叙述から比較し、ちいちゃんが一人でかげおくりをした理由を考える。（1時間・本時）	【読ウ】似ている叙述に着目することで二つの「かげおくり」を比較し、叙述を基に一人でかげおくりをしたちいちゃんの気持ちを想像し、心を打たれた言葉や文章を書き出している。（ワークシート・発表）
	・ちいちゃんが失ったものを整理ながら、ちいちゃんがいけない場面について考えよう。	・ちいちゃんが失ったものとしいちゃんがいけない場面に登場するものごとを比較しながら、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて考える。（1時間）	【読ウ】これまでに読み取ったことと第五場面とを比較しながら読むことで、戦争の恐ろしさや平和の大切さを感じ、心を打たれた言葉や文章を書き出している。（ノート・発表）
つかう	・「ちいちゃんのかげおくり」の感想文を書き、交流しよう。	・「ちいちゃんのかげおくり」の感想文を書く。（2時間） ・感想文を読み合い、相互評価する。（1時間）	【読エ】本文を引用や要約し、感想をもった理由を挙げながら書いている。（原稿用紙） 【言イ】自分の考えを表現するために必要な語句を用いながら書きまとめている。 【読オ】友達との考え方の違いや書き方の違いに気付くことができる。（ワークシート）

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・二つの「かげおくり」を比較しながら、叙述を基に一人でかげおくりをしたちいちゃんの気持ちを読み取り、心を打たれた言葉や文章を書き出すことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	時間	指導上の留意点・評価
つかむ	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 二つの「かげおくり」のちがいを見つけ、かげおくりをしたちいちゃんの気持ちを考えよう。 </div> 3 学習場面を音読する。	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・ちいちゃんの一人ぼっちになった様子や、数日間お母ちゃんやお兄ちゃんの帰りを信じて待っている様子を確認する。 ・第四場面を音読することを確認する。 ・どんな「かげおくり」なのかを考えながら音読させたい。
ふかめる	4 二つの「かげおくり」を比較し、「かげおくり」をしたちいちゃんの気持ちを考える。 (1) 二つの「かげおくり」を比べる。 (2) 二つの「かげおくり」の違いを考える。 (3) ちいちゃんが一人でかげおくりをした理由を考える。 5 感想文の準備をする。 (1) 心を打たれた言葉や文を書き出す。	36分	〈工夫①〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 記述に即して考えを持たせる工夫 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの「かげおくり」の似ている叙述にサイドラインを引き、違うところを丸で囲む。 ・「空からふってきた」「たった一つのかげぼうし」「重なって聞こえ出しました」の叙述に着目し、違いを捉えさせると共に、ちいちゃんにとって、どんな「かげおくり」なのかを考えさせたい。 ・前時までの物語の展開を重ねて考えさせることで、家族に会いたいと強く願うちいちゃんの気持ちを想像させたい。 ④ 叙述を基にしながら、一人でかげおくりをしたちいちゃんの気持ちを読み取っている。 ・感想文に生かすため、心を打たれた言葉や文を書き出させる。 〈工夫②〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の考えを表現する場の工夫 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・心を打たれた言葉や文をと共に、選んだ理由が発表出来るように、ワークシートを工夫する。 ⑤ 心を打たれた言葉や文章を理由と共に書きまとめている。
まとめる	6 次時の学習内容を知る。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ちいちゃんが失ったものを整理しながら、ちいちゃんがいけない場面について考えることを知らせる。

(3) 具体の評価規準

- A 二つの「かげおくり」を比較しながら、叙述を基に一人でかげおくりをしたちいちゃんの気持ちを詳しく読み取り、心を打たれた言葉や文章を書きまとめている。
- B 二つの「かげおくり」を比較しながら、叙述を基に一人でかげおくりをしたちいちゃんの気持ちを読み取り、心を打たれた言葉や文章を書きまとめている。

努力を要すると判断された児童への具体的な手立て

着目する言葉や前時までの様子を限定したヒントカードを活用させながら考えさせる。

7 板書計画

ちいちゃんのかげおくり

あまん きみこ

二つの「かげおくり」のちがいを見つけ、かげおくりをしたちいちゃんのかげおくりの気持ちを考えよう。

最初のかげおくりの場面

最後のかげおくりの場面

家族みんなでする
楽しいかげおくり

ひとりぼっちのまぼろしのかげおくり

「なあんだ。みんな、こんな所にいたから、来なかったのね。」

みんな・・・
こんな所・・・
さらさらわらわらしたちいちゃん